

【幸い:happy】2 回目

幸いについて、2 回目です。もう一度書きます。マタイによる福音書の 5 章 3～10 節『3「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。6 義に飢え渇く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。』【3 “Blessed are the poor in spirit, For theirs is the kingdom of heaven. 4 Blessed are those who mourn, For they shall be comforted. 5 Blessed are the meek, For they shall inherit the earth. 6 Blessed are those who hunger and thirst for righteousness, For they shall be filled. 7 Blessed are the merciful, For they shall obtain mercy. 8 Blessed are the pure in heart, For they shall see God. 9 Blessed are the peacemakers, For they shall be called sons of God. 10 Blessed are those who are persecuted for righteousness’ sake, For theirs is the kingdom of heaven.】今度は悲しむ人です。悲しみを経験したことのない人はいるでしょうか。悲しむ者は幸せではありません。しかし、ここではその人たちは慰められます。悲しむとは胸が痛むとか、絶望の状態ではないでしょうか。たとえば、親の死や友の死を経験した時、また自分の望みが絶たれた時等、多かれ少なかれ、誰もが経験することです。聖書では「悲しむ者」と「慰められる」とは一對に書かれていることが多いです。イザヤ 57 章 17～18 節「17 彼の不正な利得の咎のために、わたしは怒った。わたしは顔を隠して彼を打ち、そして怒った。しかし彼はなお背いて、自分の思う道を行つた。18 彼の道を見たが、それでもわたしは彼を癒やす。わたしは彼を導いて、彼とその嘆き悲しむ者たちに、慰めを報いる。」【17 For the iniquity of his covetousness I was angry and struck him; I hid and was angry, And he went on backsliding in the way of his heart. 18 I have seen his ways, and will heal him; I will also lead him, And restore comforts to him And to his mourners.】神はどのような者を怒るのでしょうか。この個所では咎とあります。咎と罪とは同義語です。神は罪ある者を怒られます。しかし、神はそのような人に慰めをお与えになります。神は義なる方であり、決して罪とは交わることができません。しかし、その罪を持つ者が、嘆いて悲しむ時、神は慰めを与えてくださいます。神は義なる方なのに、どうして罪人と交わるのでしょうか。神は罪人を、罪から解放してくださいますが条件があります。贖いのためのいけにえが必要です。イエスはご自身のいのちを差し出してくださいました。十字架の死です。悲しむ者は幸いです。イエスが私たちを罪の中から解放して下さり、慰めてくださるからです。そのほかいろいろな状態が書かれてありますが、それらのすべてを解決して下さるのは、イエス・キリストです。

使徒の働き 10 章 43 節「預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられると、証しています。」【To Him all the prophets witness that, through His name, whoever believes in Him will receive remission of sins.】私たちが、イエスから罪の赦しを受けるためには、この方を信じる以外になく、他の方法はありません。ローマ 3 章 22 節「すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。」【even the righteousness of God, through faith in Jesus Christ, to all and on all who believe. For there is no difference;】信じることについて、老若男女を問わず、また身分の高い人と低い人の差別もなく、金持ちと貧乏な人の差別もありません。ただ、イエス・キリストが誰であるかを知り、そして自分に罪があることを知り、考えなければなりません。考えることができない幼児は、物事の判断ができる年齢になるまで、待たなければなりません。そして、神の国は、信じるすべての者に与えられます。

心のきよい者は、神を見る。の「見る」は未来形です。神は霊ですから、肉体の目には見えません。後に来る、新しい天と新しい地が現れるときに見ることができます。では、心のきよい人はいるのでしょうか。神の基準でのきよさを考えるならば、「私の心はきよいです。」と言える人は皆無ではないでしょうか。私たちはすべて罪人です。神は信じる者の罪を赦して下さいますが、まだ罪は残ります。しかし、神はその罪を覆って見ないようにして下さいます。イエスを信じた者は、赦された罪人です。完全にきよくなる時はイエスの前に出る時です。